

「令和6年度男女共同参画社会に関する県民意識調査」結果概要について

令和7年6月5日
群馬県 生活こども部
生活こども課

別添

1 調査概要

1. 調査の目的

令和8年度からの「第6次群馬県男女共同参画基本計画(仮称)」の策定や、今後の政策立案の参考資料とする ※前回調査は令和元年度

2. 調査の方法と実施状況

- (1) 調査対象：群馬県内在住の18歳以上の男女 (2) 標本数：2,000人(女性986人、男性1,014人)
(3) 調査方法：インターネットを利用した調査 (4) 調査実施期間：令和6年12月3日～12月18日

3. 第5次群馬県男女共同参画基本計画 成果目標達成状況

(1) 成果目標 ※ 第5次計画の成果目標21項目のうち、本調査を基準値としている5項目について記載

項目	目標値(R7)	基準値(R1)	結果(R6)	増減
男女の地位の平等感(社会全体)(問10)	35.0%	17.4%	17.5%	➡ +0.1
「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛同しない県民の割合(問12)	75.0%	67.1%	71.6%	⬆ +4.5
夫婦が同じくらい育児を分担する家庭の割合(問15)	35.0%	(※ ¹ 25.4%)	34.8%	…
ぐんま男女共同参画センターの認知度(問31)	55.0%	23.0%	25.3%	⬆ +2.3
DV等の被害者支援相談窓口を「いずれも知らない」人の割合(問37)	20.0%	(※ ² 37.2%)	50.6%	…

※¹ 問15の基準値について、分母に「該当しない(単身で育児など)」を含めて算出したため、参考値としています。

※² 問37の基準値について、選択肢に法律の名称や他の制度を含めていたため、参考値としています。

(2) 参考指標

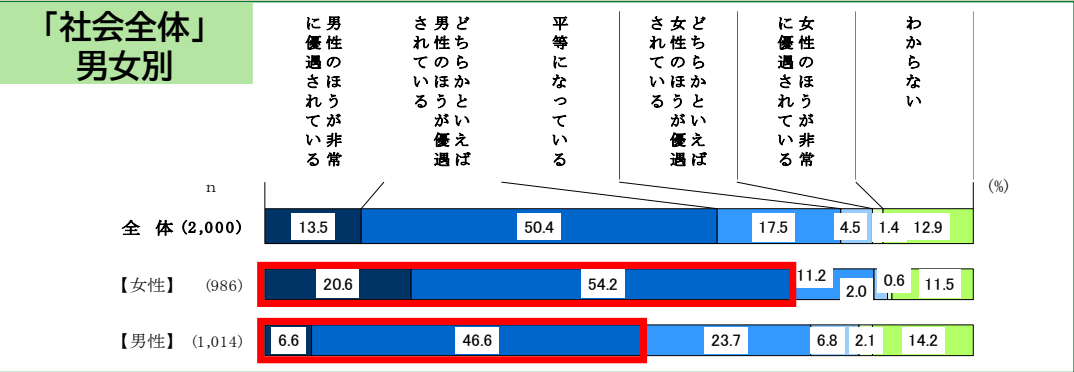
項目	前回調査(R1)	今回調査(R6)	増減
「男女共同参画社会」の認知度(問25)	47.5%	49.5%	⬆ +2.0

2 令和6年度男女共同参画社会に関する県民意識調査 主な結果

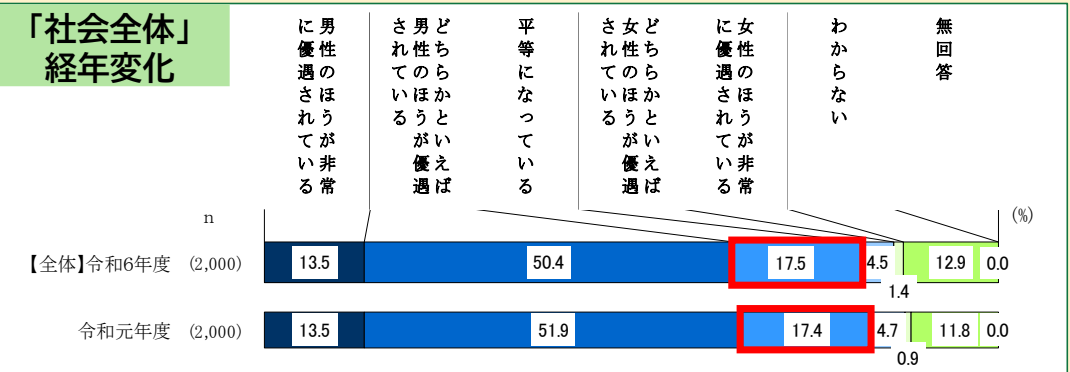
(1) 男女の平等感について

様々な場面における男女の平等感（問10）

● 「社会全体」の項目で「男性のほうが優遇」と考える割合は、女性の方が高い



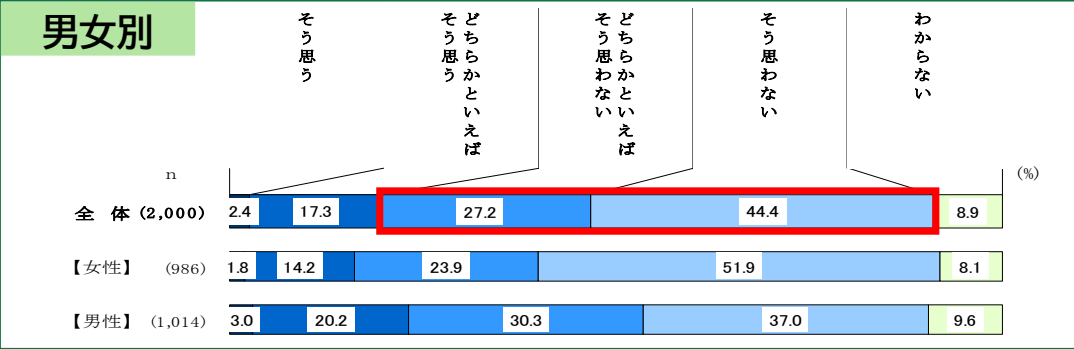
● 「平等になっている」と考える割合は、前回調査とほぼ同じ



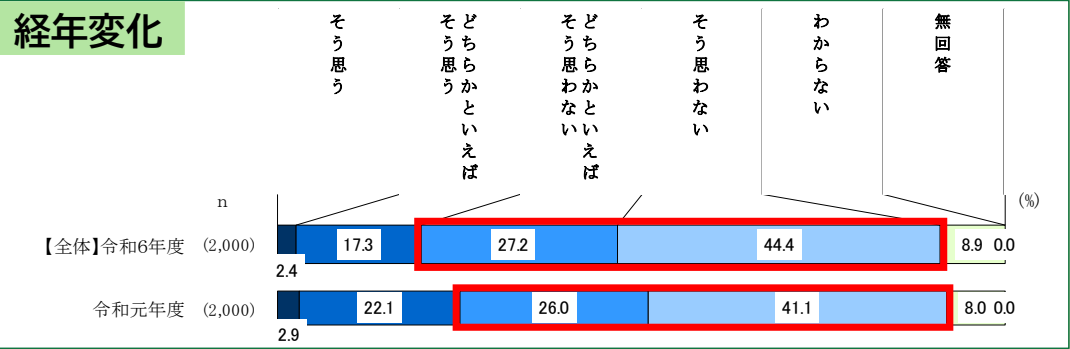
(2) 結婚に関する考え方や家庭内での役割について

男は仕事・女は家庭という考え方（問12）

● 男女ともに「そう思わない」の割合が高く、全体で7割以上



● 「そう思わない」の割合が前回調査より上昇



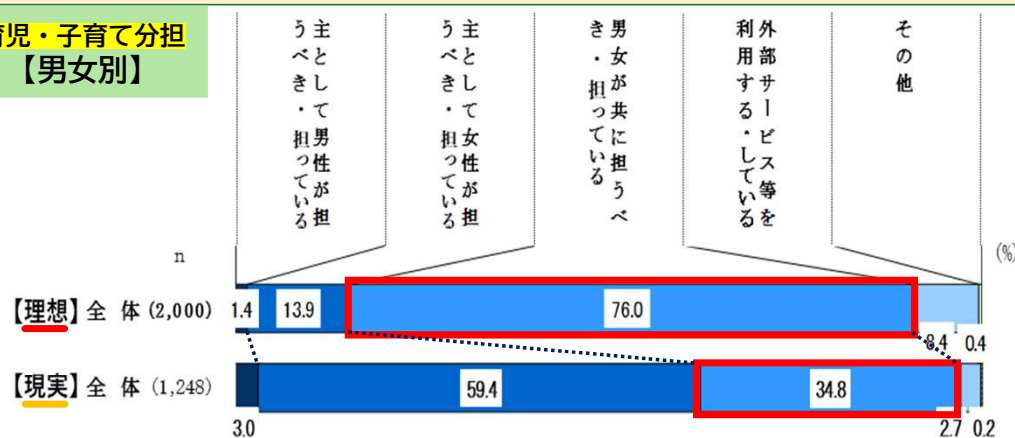
2 令和6年度男女共同参画社会に関する県民意識調査 主な結果

(2) 結婚に関する考え方や家庭内での役割について

家庭内の役割分担の理想と現実 (問14, 15)

- 「育児・子育て分担」と「家事分担」の【理想】においては、「男女が共に担うべき」が約8割
- 「育児・子育て分担」と「家事分担」の【現実】においては、「男女が共に担っている」が約3割

育児・子育て分担 【男女別】



家事分担 【男女別】

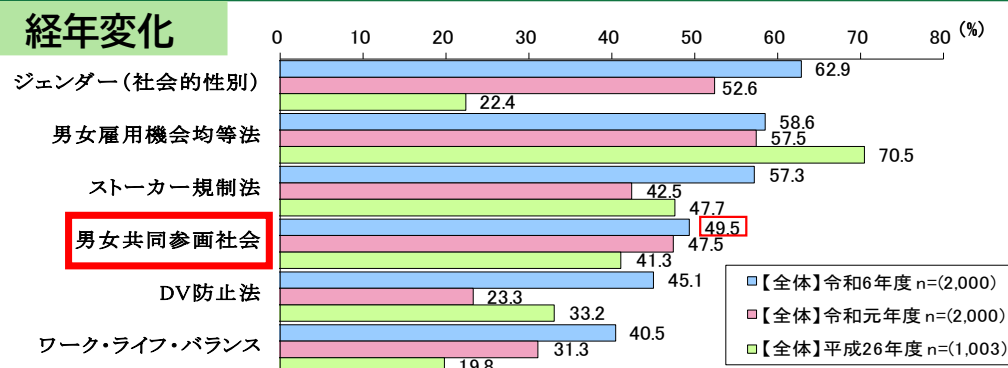


(3) 男女共同参画社会づくりのための施策について

男女共同参画社会の認知度 (問25)

- 「男女共同参画社会」を見聞きしたことがある方は約5割で、前回調査より上昇

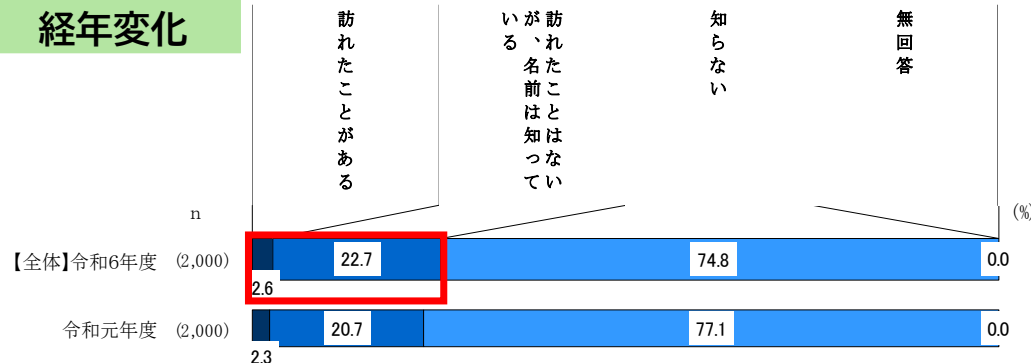
経年変化



ぐんま男女共同参画センター認知度 (問31)

- 「知っている」方は約3割で、前回調査より上昇

経年変化



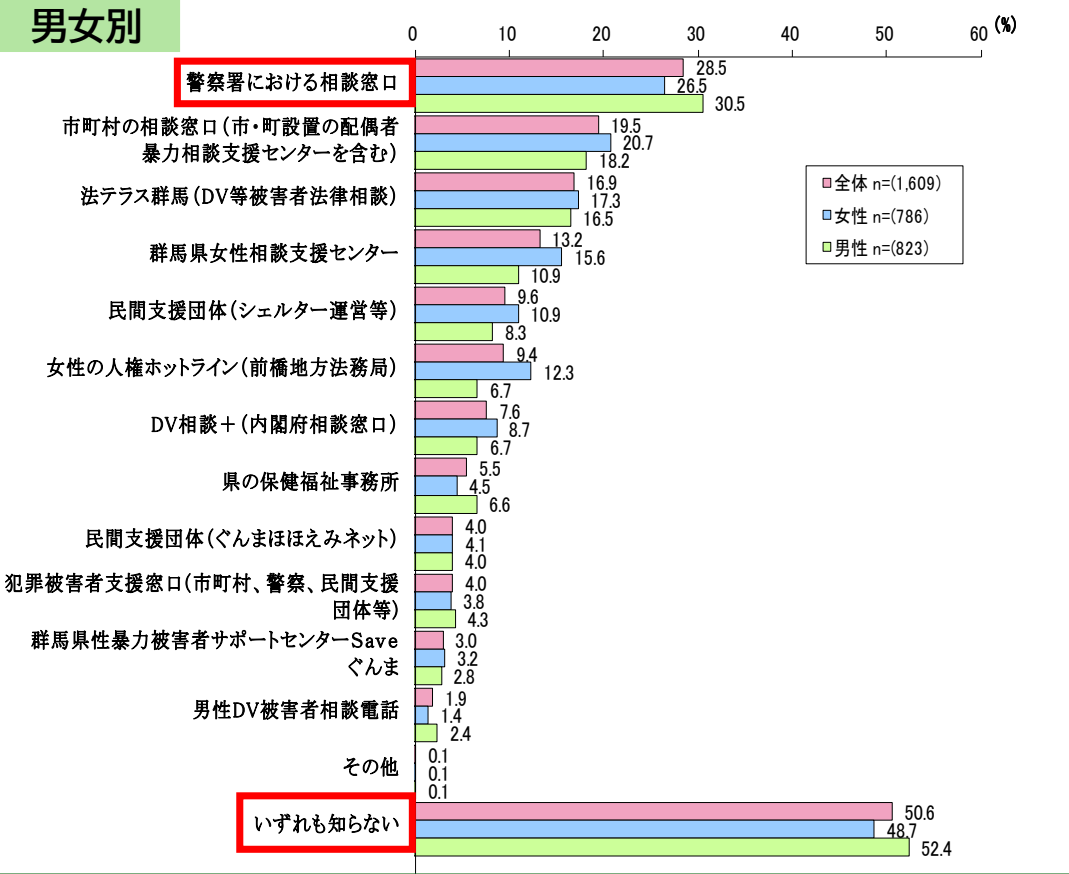
2 令和6年度男女共同参画社会に関する県民意識調査 主な結果

(4) ドメスティック・バイオレンス(DV)及び困難な問題を抱える男女について

相談窓口の認知度 (問37)

- 「警察署における相談窓口」が男女ともに高い
- 「いずれも知らない」は5割

男女別



窓口相談における必要な配慮 (問38)

新規

- 男女ともに「24時間相談ができる」が最も高い
(全体45.9%、女性53.2%、男性39.0%)
- 次に、男女ともに「匿名で相談できる」が高い
(全体41.3%、女性48.2%、男性34.8%)

【男女差が大きい項目】

- 「同性の相談員がいる」は男女差が最も大きく、女性の方が高い
(女性35.8%、男性20.3% 男女差15.5ポイント)

窓口相談に求める支援内容 (問39)

新規

- 男女ともに「気軽に話を聞いてもらえる相談窓口(SNS相談を含む)」が最も高い
(全体46.6%、女性49.9%、男性43.5%)
- 次に、男女ともに「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」が高い
(全体37.5%、女性43.9%、男性31.3%)

【男女差が大きい項目】

- 「自分の困りごとを気兼ねなく相談することができ、必要な支援につなげてくれる窓口、または手続等に同行してくれる人」は男女差が最も大きく、女性の方が高い
(女性43.9%、男性31.3% 男女差12.6ポイント)